

庭の小宇宙に感謝、生き物万歳！

小野 恭雪 福島県会津若松市 六十九歳

我が家は新築して十二年目に入った。その間、庭に白木蓮、花ミズキ、ハナカイドウ、レンギョウ、グミ等を植えたが今では鬱蒼と小森の感を呈している。その庭のレンギョウにヒヨドリが巣作りをして二週間ほどになった時、予期せぬ事故が起きた。親鳥の一羽が庭に面する部屋のガラスに激突したのだ。芝生の上にぼろきれの様に落ちて全く動かなくなった。不吉な思いが頭を過ったが、猫などに留めを刺される前に確保しようと裸足で庭に飛び出した。掌に乗せても動かない。三分から五分間、じっと様子を見た。すると体は動かさないが眼は動いていた。其の時だ、番いのもう一羽が鋭い声を出して近づいて来た。その声に一瞬で覚醒し、バネの塊が弾けたかのように掌から飛び立って行った。

野生の生き物には危険がいっぱいある。其の中を生き抜き、命を次世代に繋ぐのは大変な任務である。何かの縁で我が家の庭の木で子育てをし、激突から覚醒し、元気に飛び立ったヒヨドリの姿に命の輝きを見て感動した。穏やかな日々の中の小さくて、大きな、心に残る出来事であった。

家の庭に花が咲くと蜂や蝶が蜜を求めてやって来る。木陰には小鳥が子育ての為にやって来る。セミたちの懸命な鳴き声は暑さに負けるな、と叱咤してくれる。もし庭が無かったら我が家は砂漠のようになってしまうだろう。自然の恩恵が一杯詰まっている庭は私の命であり小宇宙だ。